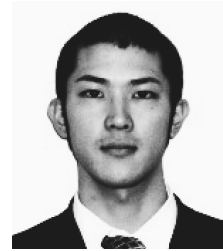


仕事に生きる理論武装

大阪商工会議所国際部 清水 僚介

国際経営コースでの2年間は非常に密なものであった。少人数の授業で頻繁にハイレベルなディスカッションをする機会があり、なおかつ、すべて英語で進められるため、常に自分の頭の中を整理することが求められた。加えて、マーケティング、マネジメント、ファイナンスの知識を得ることで、議論は理論武装をするようになり、物事をマクロ的にもミクロ的にも見る習慣がついた。



また、数々のケーススタディを通して、学問が実際の現場でどのように生きていくかを学べたことは非常に大きかった。無限にある情報も、学問のレンズを通してみることで、それらの情報が理路整然と並んでいることを発見でき、次の展開への足がかりを築くことができる。

2007年3月に卒業してから、大阪の経済団体で働いている。現在、国際部で在阪企業の海外進出支援や、外国企業への大阪・関西プロモーションを行っており、外国の方々と接する機会が多い。やはり育ってきたベースの違う人たちとの会話で必要なのは、誰もが理解できるロジカルな議論である。そして、互いにWin-Winの関係を築くためには、大局を外さず、先を見据えたコミュニケーションが不可欠だ。

自分の中に、MBAで学んだ理論というコアがあるため、自信を持って仕事をする事ができる。今、仕事を楽しめるのは、経営戦略研究科のおかげであると感謝している。



IMCでの学びをビジネスにどう活かすか

P&Gジャパン株式会社 ファイナンス部門 長谷川 弓子

現在私は外資系メーカーでファイナンスの仕事をしていますが、そもそも今の会社に興味を持つようになった直接のきっかけもIMCでの授業でした。入学したばかりだった私はマネジメント入門の授業で使われたケーススタディーを通して今の会社の化粧品ブランド戦略とグローバルな組織構造に触れ、ここでならきつと世界レベルのビジネスを体感できると感じて入社を決めました。実際に会社で働くようになると特に①包括的ビジネスの視点②論理的思考・問題解決能力③コミュニケーション能力という3点が強く求められますが、それぞれにおいてIMCで培ったものが役立っていると感じています。まず①包括的ビジネスの視点ですが、IMCでは自分の専門分野に限らずビジネス全般に渡って幅広い科目を履修することができます。そのため今の私のように入社時から職種別に仕事をするような場合でも常に他の職種の視点も理解し、ビジネスをより広い視野で捉えることができます。また、②論理的思考・問題解決能力についてはIMCでのケーススタディーを通して得たデータから自分なりの考えをまとめて提案するという力が今でも私の支えとなっています。最後の③コミュニケーション能力では英語力はもとより、どの様に相手に説明すればより建設的な議論ができるのか・相手の意見を引き出すにはどうすればよいのかといったコミュニケーション戦略に至るまでIMCでの2年間で私に強固な基盤を与えてくれています。

